

「校宝の松」



発行者 校長 縄田 淳一
令和元年5月15日(水)

「自信」をつけるために頑張ってます！大石っ子

○4月26日のPTA総会、授業参観、懇談会には多数の方にご出席いただきましてありがとうございました。保護者の方々からの視線を受けて、子どもたちがほどよい緊張感の中、すごく張り切っている様子が伝わりました。また、子どもたち以上に緊張していたのは先生方かも知れません。経験を積んだ先生も普段とは違う緊張の表情でした。ひたむきにがんばる姿は子どもであれ、大人であれ、感心させられますね。



【初めての授業参観：1年生】

○長い10連休が終わって、「学校に行き渋る子がいるのでは？」と心配していましたが若干体調をくずしている子はいましたが、子どもたちは、比較的元気に登校し、学校生活を楽しんでいるようです。



【1年生にやさしく教える6年生】

全校的に取り組んでいる長縄跳びは朝、自分たちで自主的に集まり、練習を始めます。1年生はまだ慣れないので6年生が側に寄り添ってやさしく教えてくれています。一人一人のペースに合わせて、少しずつ、少しずつ慣れさせながら1年生も跳べるようになってきています。

これも大石小学校ならではのすばらしい「学校文化」の一つです。

令和元年度 大石小学校PTA重点目標 発表！！

●生活習慣づくりの推進(大石3つの約束を守りましょう)

- ①早寝早起き ②ゲーム・スマホの約束 ③家族のふれあい

令和元年度 大石小学校PTA役員の方々です。
1年間、大変 お世話をおかけします。

PTA 役員 の 皆 さ ん					
会 長	二宮 真孝	地域副委員長	平川 順也	書 記	古賀 光成 (学校)
副 会 長	江藤 大泰	学級委員長	岩下 記美栄	会 計	物部 由紀子 (学校)
副 会 長	國武 由美子	学級副委員長	筒井 知美	監 事	篠原 武英 (自治協)
地区委員長	石橋 正行	広報委員長	諫山 聡子	監 事	權藤 浩光
				校 長	縄 田 淳 一

～子どもさんをほめてますか？～

人は誰でもほめられるとうれしいものです。子どもの場合は特にそうです。そして、そのうれしいという気持ちは、心を和ませ、子どもの自尊感情や前向きに取り組もうとする意欲を高め、自らを向上させようとする力、つまり、自信になります。

ところが、日本の場合、大人はほめることには消極的です。ほめるよりもむしろ欠点や直したいところに目を向け、叱ったり、注意して育てようとする傾向が強くなります。良くないことをすれば、叱るのは当然ですが、それだけだと子どもたちの心を萎縮させてしまいます。今年の大石小の子育ての目標は「自分への自信」です。

ぜひ、日常生活の中に子どもの良さを見つけ、「ほめる」割合を増やして子どもを育てていきたいですね。

ほめ上手な大人であるために

ポイント1

日頃から子どもの良さに気づこうと意識する



目につきやすい子どもの気になるところや直したいところばかりではなく、日頃からちょっとした伸びや良さに気づこうと意識しておく、ほめるべきところがどの子どもにもたくさんあることが見えてきます。

ポイント2

子どものちょっとした伸びや良さを捉えてほめる



例えば、大きな声で返事ができた、言われなくてもテレビを切って宿題を始めた、先生の話聞く時の姿勢が良くなった等、日常生活の中にはたくさんあります。

ポイント3

ほめる時は、どんなところが良かったのか具体的にほめる

例えば、運動会での子どもの様子を見て、「よくがんばったね！」とほめる方法もありますが、ほめる時には、「ダンスの時の表情がとても素敵だったよ！」のように具体的にほめたほうが子どもの心に響きます。

ポイント4

タイミングを逃さずにほめる

●子どもの言動をほめる時は、できるだけその場でほめることが大切です。叱る時と同様で、タイミングを逃すことで効果が大きく違ってきます。

ポイント5

他の子どもと比較してほめることはできるだけ控える

●「～さんより上手にできたね！」のように競争心を刺激したほめ方をすると、子どもは喜び、頑張ります。しかし、他の子どもとの比較を過度にやると順位にこだわった頑張りになり、必ずしも自尊感情や意欲そのものの向上にはつながらないこととなります。当然ながら、「～さんよりだめだったね」などというのは好ましくありません。

ポイント6

「結果」だけでなく、「過程」も大切にする

●結果だけでほめたり、叱ったりしたのでは、自分は受け入れられていないと子どもは感じ、意欲も減退します。一生懸命に頑張った過程（プロセス）をほめ、次への意欲付けや目標づくりに生かしてください。

ポイント7

ほめ方の工夫をする（感謝を添える、第三者の言葉を使って、…）

●ほめるといっても、大げさに言う必要は何もありません。お手伝いしてくれた子どもに「ありがとう。助かったよ！」と、感謝の言葉を言ったり、落ちているごみを黙って拾い、ごみ箱に捨てている子どもを見て笑顔でうなずいたりする。そんな工夫も効果的です。さらには、「近所の〇〇さんがほめてたよ」「〇〇先生がすごい！って言っていたよ」など、第三者の言葉を使うとかなり効果的です。

●叱るばかりでなく、ほめて育てることで子どもは「成功体験と自信」を身につけます。